

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401118		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム 星の里		
所在地	千葉県若葉区野呂町738-2		
自己評価作成日	平成31年2月13日	評価結果市町村受理日	令和2年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年5月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の周りの環境が、田んぼや緑に囲まれ、静かな所に所在しております。穏やかにのんびりと、その方のペースで過ごす頂く事が可能です。散歩なども、のどかな雰囲気で行い、リラックス出来る環境も提供しております。積極的に散歩を行っており、ご近所の方からのお声かけもあります。下肢筋力低下防止に努め、施設内のリハビリを実施しております。月1度のお楽しみ献立にて、お弁当やお寿司などをとり、皆様に喜んで頂いております。健康管理に配慮をし、早期発見、早期対応に努めており、訪問診療、訪問歯科、受診介助等、ご入居者様の状況に応じて支援させて頂いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「その人に合った介護を提供し、笑顔で過ごせる明るいホーム」という理念のもと、管理者と職員は利用者が穏やかに日々の生活を送れるように、寄り添いながら支援している。地域の清掃活動やお祭りなどの行事に参加したり、散歩に出かけるなど、地域の一員として生活している。食事は、ユニットごとにメニューを考えて、家庭的な食事を提供しており、朝食もご飯とパンを交互に出すなど、飽きないように配慮している。行事に合わせたメニューを考えたり、誕生日会にお寿司などを買ってくるなど、利用者にとって食事が楽しいものになるよう工夫している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を再度検討し、その後は、意識付けと実践を目指した行動をするよう指導をしている。	「その人に合った介護を提供し、笑顔で過ごせる明るいホーム」という理念はリビングにも掲示しており、職員がいつでも目にして意識できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美化活動にお声掛け頂き、施設から2名の利用者様と一緒に参加する事ができ、地域の方からお声掛け頂けるようになってきている。	自治会に加入しており、地域の美化活動に参加している。また、夏祭りや花火大会などの行事にも利用者と一緒に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、近況の報告や、地域の情報を交換するなど、認知症の方の現状を報告するなどし、理解を頂ける場になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	適宜、施設の状況を報告し、上記同様、意見を頂き、サービス向上に活かしている。夏祭りでの花火大会などは、日程は地域の方が伝えてくれている。	地域の民生委員や自治会長、地域包括支援センター職員などが参加して、定期的に開催している。ホームからの報告の後に意見交換をしており、昨年の台風被害の後には様々なアドバイスももらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会援護課担当者と、連絡、報告、相談を行うと共に、月に1度は訪問し、近況の報告をしている。	市の担当課とは日頃から情報交換しながら、連携して利用者を支えている。また、運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、意見交換をするなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の研修の実施を行い、ケアの質の向上に向けている。	「身体拘束等の適正化のための指針」があり、身体拘束にあたる事例を出して分かりやすく示している。指針に基づき、適切に委員会を開催し、研修を実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の研修の実施を行い、ケアの質の向上に向けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、参加するよう努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、契約書の説明、重要事項説明書の説明を行い、質問などに答え、理解、納得を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、自らが、要望や、困っている事などを、職員や管理者に相談できる環境が出来てきている。	管理者は、言いたいことが言えるような環境をつくるように心がけており、できる範囲で反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時に会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、適宜、職員の相談や困っている事を、管理者が積極的に職員に聴取している。	管理者は、会議などの場で職員の意見を聞いたり、相談に乗る中で聞き取るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日常の勤務状況を観察し、個々のレベルや状況に合わせた、勤務配置などを行い、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は個々のレベルに合わせた、介護方法を提案し、現場の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が図れなくなっている。今後、交流する機会を設けるよう努力していく。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人が困っている事や不安な事をアセスメントや聴取し、入居後は、職員と情報を共有することで、早期に安心出来るよう、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全入居者が、生活保護受給者となり、キーパーソンが不明であるが、ご友人や前任ケアマネージャーから情報を収集するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が、ご本人とコミュニケーションを築き、真のニーズや、優先順位などを考慮するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様扱いをする事なく、一、個人とし、ご本人の有する能力を存分に発揮できるよう、役割を作り、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全入居者が、生活保護受給者となり、キーパーソンが不明であるが、ご友人等の面会者が来所した際には、また面会に来所したいと思われる施設になるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会等は、積極的に受け入れ、再一度、面会に来所したいと思われるような関係性の構築に努めている。	友人や知人との関係継続を支援しており、友人などの訪問は歓迎している。また、ホームが馴染みの場所であり、職員が馴染みの人となるような関係性をつくるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重度化に伴い、困難になってきているが、孤立しないよう、職員と情報を共有しあい、努力している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや、情報から、ご本人の状況や心理状態を考慮し、ご本人に良い環境を最善に考え、検討している。	日々の生活の中で思いなどを聞き取ったり把握するように努めている。時にはケアマネジャーが実施したアセスメントから情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活保護受給者で、前の情報が極めて少ない。出来る限り、情報収集に努めているが、情報の正否の判断が困難。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活について、安否確認を含め観察をし、今年度は、一人も離設する利用者は居なかった。また、心身の状況は日々変わるので、慎重に観察を行う事を意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活について、情報共有をし、IADL、ADLを活用出来るよう、ケアプランを作成している。	職員からの情報を得ながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。月に1回モニタリングをおこない、1年に1回見直しをして、適切な計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌にて、情報共有ができ、サービス向上に繋がるよう活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員からの意見を確認し、ご本人のご要望や、課題について、迅速な対応や、臨機応変に対応が出来るよう努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への花火大会や、市の図書館の催事などのお誘いを頂き、参加出来る方は参加し、楽しむ事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況に合った、医療連携を考えており、通院での受診、訪問での訪問診療を適切に利用し、主治医と連携を図っている。	訪問診療、通院など、一人ひとりに応じた医療が受けられるように支援している。専門医への通院同行は職員がおこない、医師と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅療養管理指導にて、訪問医院の看護師と、24時間、連絡相談を取れる環境が整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、MSWと連携を図り、安心して元の生活に戻れる、面会や情報交換をし、ご本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは未実施であるが、ご本人に苦痛の無いよう過ごせるよう、主治医と相談、連携を図る整備は整っている。	法人の方針としてターミナルケアは実施していないが、本人の状態をみながら、主治医と相談して本人が穏やかに過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命措置に関して、現場の職員も、知識が必要な為、外部研修へ参加し、ケアの質の向上に努めている。また、訪問医院の看護師かれ、指導を受ける機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回の避難訓練を実施している。	夜間想定訓練も含め、年2回の避難訓練をおこなっている。また、当日参加できなかった職員には口頭で説明をすることとしている。	自然災害の多発する昨今の状況を鑑み、今後はさまざまな災害を想定した訓練を考えてもよいと思われる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様主体の介護を心がけており、ご本人を尊重し、ご本人に合った声掛けが出来るよう指導に努めている。	管理者、職員は一人ひとりを尊重することを大切に支援している。また、排泄や入浴、更衣を支援する際は、他の人の目に触れないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の意向を表現出来る環境作りに努めている。職員の指導を行い、要望に応えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活のペースは、ご入居者様のペースで過ごして頂けるよう、ご入居者にお任せしており、必要な方は声掛けや、提案の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容が出来る方はお任せし、お手伝いが必要な方は、職員がコミュニケーションを図りながら、髭剃り等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常の食事の他に、月に1度、お楽しみ献立とし、在宅で生活をしている方と同様な食事を提供出来る機会を設けている。また、家事の参加が出来る入居者様と一緒にやっている。	ユニットごとにメニューを考えて、家庭的な食事を提供している。朝食もご飯とパンを交互に出すなど、飽きないように配慮している。行事に合わせたメニューにしたり、誕生日会にお寿司などを買ってくるなど食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いせずに、ご本人のペースに任せている。健康面は職員が管理をしている。便秘症の方が多いので、意識するよう指導を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は、訪問歯科にて口腔ケアを受け、誤嚥性肺炎防止や、口腔機能維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、テープ止めの紙おむつを使用しないよう、排泄ケアを行っている。	排泄チェック表により、利用者の排泄間隔を把握したうえで、声掛け誘導して排泄の自立に向けて支援している。夜間は、状況に合わせておむつやリハビリパンツを使用するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックを行い、水分不足にならないよう配慮し、天気の良い日は散歩に出掛け、運動する機会を作るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴サービスを提供している。お湯の温度等は、本人の希望に合うよう努めて支援している。	自立している利用者については、自分のペースで入浴してもらえよう、見守りしながら支援しており、入浴を楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の習慣や、体調に合わせて、ご本人様に睡眠時間はある程度任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を、職員と共有し、疾患や症状の変化に対応出来るよう指導すると共に、変化時に対応出来るよう、訪問医院と連携を図っている。便秘症の方が多いので、下剤のコントロールを行っている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様、それぞれに合った、役割を提案し、参加して頂き、気分転換が出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様のレベルが低下してきている事で、外出がなかなか出来ていない。散歩へは積極的に実施している。	天気がよければ、毎日のように散歩に出るようになっている。また、ホームの敷地内で日光浴をするなど、外気に触れる機会を持つようになっている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護受給の範囲で、出来る限りの事を実施しているが、現状、好きな物を買うという事が困難な状況になってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応するが、全員生活保護受給者になり、身元引受人も不在であり、依頼等は聞かれていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節が出来ない方が多いが、職員が巡回等で、点検を実施し、適温に設定をしたり、共有部分で、不快な思いをしないよう、その時々で状況で、迅速に対応をしている。	リビングにはソファを置き、食卓以外でも寛げるようにしている。また、利用者の見当識障害軽減のために、見やすい時計やカレンダーを置くなどの対応をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースと、居室と、ご入居者様に、過ごしやすい場所を選らんで頂き、過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、過ごしやすいと感じられる、環境整備に配慮をしている。	入居時に新たに購入する必要はなく、本人が慣れ親しんだものを持ってきてもらうように伝えており、利用者は持ち込めるものはできる限り持って来て、安心して過ごせるような居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力の把握を共有し、役割を与えたり、自立した生活が送れるよう努めている。また、施設内のリハビリにて、残存能力を維持する事を理解できるよう支援を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所